

# 自然共生型スマートシティモデル事業実証実験（もりやグリーンインフラ推進協議会）

## ■都市課題

## ■解決方策

## ■KPI

■ **課題1**：早期に宅地整備されたエリアの高齢化と空洞化、高齢者が健康に暮らせる街

自然の中での活動を促進し、コミュニケーションを通じた心身の健幸（well-being）

■ **課題2**：新規開発エリアの子育て環境の充実、子育て世代を呼び込める環境

自然の中で子育てをしたくなる、質の高い芝地へのリノベーション

■ **課題3**：都市間競争力の強化のためのシティブランド力の強化

自然共生の地域ブランド化  
エシカルなライフスタイルの提案

項目		KPI
公園・緑地の価値が高まる	緑地の価値	生態系サービス経済価値
	緑地の評価	自然環境への満足度 (高齢者の一日あたりの移動距離)*
高齢者の活動が活性化する	高齢者の活動状況	(高齢者の外出頻度)* シニアクラブ会員数
子育て世代が活動しやすいまちになる	子育て世代の活動状況	(子育て世代 一日あたり移動距離)*
	子育て世代の増加状況	(子育て世代の外出頻度)* ファミリーサポートセンター会員数
地域のブランド力が上がる	転入者の増加	転入者数
	地価の上昇	地価の変動率(対前年度比)
	Morinfoの普及状況	Morinfoアカウント取得率(%)

## ■実証実験の概要・目的

■ 【実証1】 ロボットによる公共緑地管理・環境モニタリング

■ 【実証2】 市民参加型・もりやグリーンインフラマップの構築

の実証実験を実施。

## ■実証実験の内容

## ■実証実験で得られた成果・知見

実証1

### ■ロボット緑地管理

- ✓ ロボットにより緑地管理を自動化し、コスト軽減と管理レベルを向上。
- ✓ 管理不足な緑地空間の質を向上。
- ✓ Honda社製の緑地管理ロボット“Miimo”を2台導入し、公園などの開放型緑地のロボット管理に関する社会実験を実施。

### ■成果・知見

- ✓ こまめな管理により緑地空間の質が向上
- ✓ 緑地管理だけでなく、レクリエーション効果をもたらしを確認

### ■リアルタイム快適グリーンマップ

- ✓ 市内緑地の温度・湿度リアルタイムモニタリングによる、遊びやすいクールスポット緑地の情報提供。

### ■成果・知見

- ✓ 公園の快適性を見える化するシステム構築し試行を実施
- ✓ アクセスユーザー数は289名

実証2

### ■市民参加グリーンインフラマップ（樹木見守り調査隊）

- ✓ 市民による樹木調査・樹木管理を実施するWEBアプリの構築、市民管理試行のための調査イベントの開催。

### ■成果・知見

- ✓ 市民樹木調査・管理プログラム、WEBアプリケーションを構築。
- ✓ 約8～9割の参加者が樹木健全性を判断できた。

### ■AI Moriya いきもの調査隊

- ✓ AIによる種判別が可能なバイオーム（app）と連動した、クエスト形式でのいきもの調査。Moriya Green Pointインセンティブに関する検証も含む。

### ■成果・知見

- ✓ 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言期間と重なったが、参加者数は過年度の4倍以上と大幅に増加。



## ■今後の予定

- データ連携基盤への情報統合と重ね合わせ、市民参加促進のためのレクリエーション性の追加や付加価値創出等を進める。
- 2023年度の本格実装を目指す。